

# 完全5日制授業ゆったり

## 小学算数 台形の面積削除 中学数学 不等式は高校で 中学理科 天気図作らない

2002年度から

### 教育課程審が改定案

文相の諮問機関である教育課程審議会は、二〇〇二年度から実施する完全学校週五日制の教育内容を検討しているが、改定案の主な内容が明らかになった。小学校「算数」の教育内容を現行より約三〇％、中学校「数学」では約三六％も大幅に削減、台形の面積計算などの項目が小学校から姿を消す。また、中学校「理科」では天気図作製などがなくなる。同審議会は六月末には審議のまとめを公表し、七月に答申する予定。これを受けて文部省は今年中に小・中学校の新学期指導要領の告示を目指す方針だ。

完全学校週五日制の実施に伴い、各教科の授業時間「見直しが必要となっていく。

#### 算数・数学の教育内容の削減案

(カッコ内は現行の学習指導要領で勉強することになっている学年)

- 小学校・算数
  - ＜削除＞不等号の式(2年)、台形と多角形の面積(5年)、単位の換算(2年～)、正多角形(5年)、度数分布(6年)、比の値(6年)
  - ＜上級学年へ移行＞小数や分数の導入(3年)
  - ＜中学校へ移行統合＞柱体とすい体の表面積(6年)、図形の合同(5年)、図形の対称(6年)、縮図や拡大図(6年)、円すいなどの立体図形(6年)、文字式(5年)、比例・反比例の式(6年)、並べ方・組み合わせ(6年)
- 中学校・数学
  - ＜削除＞立方体の切断(1年)、数の表現(2年)
  - ＜内容の軽減＞文字を用いた式の計算(1年)
  - ＜上級学年へ移行＞図形の相似(2年)
  - ＜高校へ移行統合＞一元一次不等式(2年)、二次方程式の解の公式(3年)、接弦定理など円の性質に関する内容の一部(3年)、三角形の重心(2年)、資料の整理(2年)、いろいろな事象と関数(3年)、標本調査(3年)

AA1998003951

改定案によると、小学校「算数」、中学校「数学」で、削除される内容や上級学校に移行される項目は表の通り。小・中学校とも、

基礎的、基本的な内容を全員に身につけさせるため、高学年で教える項目を大幅に減らしている。小学校では、複雑な内容まで教えがちな単位の換算、台形の面積の求め方など六項目が削除、八項目が中学校に移される。このほか、けた数の多い整数や小数の計算、帯分数を含む複雑な分数の計算などは、内容をやさしくする。中学校でも、複雑な考え

方が求められる円の性質についての内容の一部(三年生で学ぶ二次方程式の解の公式など七項目が高校に移り、二項目が削除される。完全学校週五日制の授業時間は、小学校「算数」が現行より一四％減、中学校「数学」が一八％減となる。時間数の削減率より、教育内容の削減率が高く、現行の学習指導要領よりは、同審議会が目指している「ゆとり」が実現することになる。

また、「理科」で削除されるのは、小学校が石と土(現行では三年で勉強)、動植物の運動や成長と天気などの関係(四年)、男女の体の特徴(五年)、蒸し焼きをすると炭が残ること(六年)。中学校が溶解度(一年)、天気図の作製(二年)、情報手段の発展(三年)。また、卵生と胎生など二項目が小学校から中学校へ、イオンや遺伝など十項目の内容の各二部を中学校から高校へ移行統合する、としている。

一方、新設される「総合的な学習の時間」については、「児童生徒が自分で課題を見つけ、考え、問題を解決する能力を育てることが狙い」と規定。時間割りの上は、各教科が決められることになった。小・中学校とも、評定はせず、高校では、学習成果が満足できるものに對して単位を与えるのが適当だとして、各教科の創意工夫に任せる趣旨を一層はつきりさせている。戦後初めて必修となる中学校の「外国語科」では、英語を原則とする方針。ほぼすべての公立中学で英語を選択している実態を学習指導要領にも反映させる。